

SERI NEWS RELEASE

平成 26 年 1 月 31 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 26 年 1～3 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「1～3 月期の見通し」は、『やや上昇』が 5 業種、『横ばい』が 15 業種～

- 平成 25 年 12 月実施の静岡県内主要産業（20 業種）の四半期見通し調査では、現在（10～12 月期）の業況は、『順調』が 4 業種、『普通』が 6 業種、『低調』が 9 業種、『不調』が 1 業種となり、前回（7～9 月期）からやや上向いた。
- 平成 26 年 1～3 月期の見通しは、20 業種中、「自動車販売」、「大型小売店」、「家電量販店」、「食品・飲料」、「食品スーパー」の 5 業種が『やや上昇』、15 業種が『横ばい』となった。消費増税前の駆け込み需要がピークを迎え、足元の県内産業景気は、個人消費関連を中心に回復を続けている。

担当：出版担当 大石彰男

駆け込み需要がピークを迎え、回復続く県内産業景気

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成25年10～12月期）の業況は、『好調』とする業種はなく、『順調』が4業種、『普通』が6業種、『低調』が9業種、『不調』が1業種となった。

前回（平成25年9月）調査との比較では、消費税増税に伴う駆け込み需要が顕在化した「自動車部品」と「自動車販売」が『低調』から『順調』に2ランク上昇、「大型小売店」は『普通』に1ランク上昇した。また、需要が回復基調にある「工作機械」および「情報サービス」が『低調』から『普通』に1ランク上昇した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成26年1～3月期の見通しは、20業種中、『やや上昇』が5業種、『横ばい』が15業種となった。

業種別にみると、消費税増税前の駆け込み需要がピークを迎える「自動車販売」が『順調』から『やや上昇』、高額品や家電製品の駆け込み購入が見込まれる「大型小売店」と「家電量販店」は『普通』から『やや上昇』となる見通し。また、駆け込み需要に対し増産体制がとられる「食品・飲料」、日用品のまとめ買いの発生が予想される「食品スーパー」の2業種は、『低調』から『やや上昇』が見込まれる。

『横ばい』予想は15業種で、駆け込み需要に伴う増産体制が続く「民生用電器部品」と「自動車部品」、既契約分の着工が続く「住宅」の3業種が『順調』のまま『横ばい』の見込み。内外の需要が回復基調にある「工作機械」、民間工事で大型案件が予定されている「建設」、首都圏からの案件が堅調な「情報サービス」、早春の花イベントの集客が期待できそうな「観光・レジャー」の4業種は、『普通』のまま『横ばい』で推移する予想。一方、製茶問屋の売上が前年並みにとどまる「製茶」、価格修正に伴い収益面の改善進むも原燃料の上昇が続く「家庭紙」「産業用紙」、輸送量・荷動きともに前年並みにとどまる「運輸・倉庫」、冬季五輪観戦の影響で一時的に客足が落ち込みそうな「外食」、駆け込み需要に期待するも依然件数・契約高の水準が低い「リース」、介護などの人材不足が押し下げ要因となる「人材派遣」の7業種は、『低調』のまま『横ばい』の見込み。また、国内需要の減退から受注量の確保に苦しむ「二輪車部品」は『不調』のまま『横ばい』が予想される。

なお、半期調査業種では、利益確保に苦心する「家具」は『低調』のまま、北米や中国向けが堅調に推移する「楽器」は『普通』のまま、それぞれ『横ばい』の見通し。



消費税増税を目前に控え、駆け込み需要がピークを迎えるなど、足元では個人消費関連を中心に回復を続ける県内産業景気であるが、4月以降の反動減を懸念する声は根強い。また、原材料・燃料価格が高止まりする中、製品・商品価格に上乘せ分を転嫁できない事業者も多く、収益面での改善は依然として道半ばといった状況にある。上向きつつある消費マインドをいかに維持していくかが、今後の県内景気回復の焦点となろう。